

松江市立八束小学校 心に残る文化財子ども塾

9月10日(火)、松江市立八束小学校で、心に残る文化財子ども塾を行いました。6年生33名の参加でした。

この日は短縮授業となったため、5校時目40分間で「八束の歴史と朝鮮人参」について、島根県立古代出雲歴史博物館の学芸員の講義を聞き、地域の身近な歴史について学習を行いました。

講義では、まず、『出雲国風土記』をもとに、「蛸島」「蜈蚣島」として登場する八束の島の名前の由来や、馬がたくさんいた奈良時代の様子について紹介しました。また鎌倉時代の『大山寺縁起絵巻』に、中海に大小二つの島が多く帆船とともに描かれていることなど、朝鮮人参栽培が始まる前の様子について説明を受けました。

次に、朝鮮人参栽培と地域の様子について、写真や資料を見ながら話を聞きました。江戸時代後期、松江藩が藩の財政を立て直すため、今の松江市古志原において朝鮮人参栽培を始め、何度も失敗をくり返した後に栽培に成功し、八束ではこの後本格的に栽培が始まったこと、松江藩は農民から畑をむりやり取り上げて代わりに江島を埋め立ててできた田んぼを与えたこと、朝鮮人参栽培は、幕末には藩財政を支えるほどになり、この収益で全国に先駆けて西洋軍艦2隻を購入し、折からの列強諸国の攻撃に備えていたことなどの説明を聞きました。

授業の終わりには、参加した子ども達が「むかしの島の名前の由来をしくて良かったです。」「八束の朝鮮人参が松江藩の財政危機から救ったことは知らなかったのが驚いた。」等の感想を口にしていました。

今回は、体験活動はできませんでしたが、この学習を今後のフィールドワークにいかして欲しいです。

【子ども塾の様子】



【学習後の感想より】

- 「たこじま」と「むかでじま」の名前のつきかたが分かって良かったです。
- 奈良時代、馬がたくさんいたなんて知らなかった。
- 薬用人参のことがよくわかった。失敗をくりかえしたのにあきらめずにがんばったところがすごいです。
- 松江藩は軍艦を持っていたなんて知らなかった。
- 八束の歴史を詳しく丁寧に教えていただくことができました。ワークシートを穴埋めしたり、大事なところはクイズ形式にしたりすると、さらに理解が深まるのかな、と思いました(担任の先生より)。

八束小学校のみなさん、ありがとうございました